



時代の要請に応える「技術的拠りどころ」をめざして

所 長 中村 俊一

4月1日付けで工業技術センター所長に就任いたしました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

工業技術センターは、前身の工業試験場設立(大正12年)から今年で92年、工業技術センター(昭和62年)となって28年目を迎えています。これまで諸先輩方が培ってきた歴史を考えますと、所長の重責をひしひしと感じているところです。先輩方の地域振興への熱い思いを引き継ぎ、県内企業から期待や信頼に応える工業技術センターとなるよう、運営してまいりたいと存じます。

そのために、取り組む目標・方針を以下に示します。

1 中期業務計画の確実な推進

平成24年度策定の工業技術センター中期業務計画は、平成28年度までの工業技術センターの技術支援と研究開発の業務の方向性を示しており、これまで、着実に実行しております。今年度も引き続き、「企業活動の支援」を業務の柱と位置付け、工業技術センター利用者の満足度向上などに取り組んでまいります。その中で特に、次の2点については力点を置いて進めていきたいと考えています。

(1) 利用企業の裾野拡大

鹿児島県には製造業の事業所が約5千社あります。究極の目標は、この全ての企業に工業技術センターを利用していただくことです。その理想に近づくためには、企業訪問等を積極的に実施し、工業技術センターを利用することのメリットを丹念に伝える掘り起こしを実施し、利用企業の裾野を広げたいと考えます。

(2) 研究成果の技術移転を促進

特許取得を果たすなど、一定の成果を出した研究成果を県内企業等に広く情報発信し、共同研究等を通じて積極的に技術移転をはかります。企業

の製品化や事業化の事例増を目指します。

2 その他の取り組み

(1) 鹿児島・神奈川工業技術交流

製造品出荷額等で鹿児島県の約10倍の神奈川県との交流から鹿児島県の中小企業振興に役立つ情報を収集します。共同研究の実施も検討します。

(2) 各種中小企業振興施策への対応

政府の経済政策や県の振興施策に関する事業に県内中小企業が取り組む際に協力します。現在、中小企業団体中央会の「ものづくり・商業・サービス革新補助金」は、5月8日までの募集です。

3 将来に向けた検討事項

工業技術センターの業務遂行に必要なと思われる課題について企画し、将来の事業実施に備えます。

(1) 新規分野・新規課題への挑戦

大島紬関連技術を活用した新規繊維素材、売れる商品にする感性工学、発酵や化学をベースとしたヘルスケア関連技術等、県内中小企業が新規創業や異分野への参入促進に役立つと思われる情報を収集します。

(2) 大型プロジェクト、試作支援施設の検討

工業技術センターの保有するシーズの中から優れたものを核として地域産業界に波及効果の大きい大型プロジェクトや試作支援施設の可能性を検討します。

(3) 新たな業務計画への準備

かごしま製造業振興指針の改訂を視野に入れ、平成28年度末の業務計画作成に向けて情報収集を行います。

県内企業のニーズや時代の要請を的確に捉え、地域のイノベーションを創出する「技術的拠りどころ」を目指して、職員一同が真摯さをもって取り組んで参ります。皆様からのさらに一層の御協力・御支援をお願い申し上げます。